

社団法人日本ボディビル連盟
平成18年度 第1回総会議事録(抜粋)

日 時 平成18年6月3日(土) 午後2時10分開会

場 所 日本青年館 アルデ
東京都新宿区霞ヶ丘町 7-1 503-3475-2525

会長挨拶 日本連盟の直面する最大のテーマは、今年はアジア競技大会の年であります。JOCが選手団を組織し、国費として派遣される訳ですが、現在選手選考の折衝中であり、トリノオリンピックが余りに成績が振るわなかったため、JOCは今回は少数精鋭でいくとの方針で厳しい対応を迫られております。釜山アジア競技大会では、ボディビルは8名全員が選考に入りましたが、今回の内示では4名でしたので、現在JOCと復活折衝中です。

次のテーマは、ボディビルの人口・愛好者を増やすことです。このことはいろいろな形で従来のジムの方々増やしてきましたが、ジムが減少しておりますので、どうやって、愛好者を増やしていくのが大きな課題と思っています。

そしてもう一つのテーマは、選手が非常に高齢化しています。これは、強い選手を育てるにはジュニア時代から鍛えていかなければ中々強い選手は育たない。若年層へのボディビルの普及、特に高校生の中にボディビル競技を通して、ウエイトトレーニングを如何に普及させていくことが大きな課題です。

今年は第1回の高等学校選手権大会が開催されますので、皆様方のより一層のご協力をお願いします。と挨拶された。

定足数の確認 正会員総数60名。本日出席正会員26名、委任状による出席正会員29名、合計55名により正会員総数の過半数を上回り、定款第24条に基づき総会は成立。

議 題

【第一号議案】平成17年度事業報告及び収支決算書について

「平成17年度事業報告及び収支決算書」に基づき説明。引き続き監査結果報告があり、審議の結果これを承認。 [事業報告及び収支決算書参照](#)

【第二号議案】平成18年度日本連盟主催大会審査員指名案について

基礎資料を基に、審査得点と地域性を考慮し、事前確認の審査員から指名案を作成したこと、今後都合により微調整があることが説明され承認された。 [審査員一覧表参照](#)

【第三号議案】平成18年度国際大会派遣役員案について

平成18年度国際大会派遣役員・選手指指名案

(1) 第1回シンガポール招待選手権 (5月18日～23日・シンガポール)

ABBF総会

団 長	玉 利 齊		
団長補佐	吉 田 進		
監 督	五十嵐清四郎		
選 手	大澤直子	49kg 級	3位
	三國智子	ミスフィットネス	1位

女子アジアおよびジュニア・マスターズの派遣については従来は日本クラス別にて決定されていたが、今年はベトナムの開催が不確定のためクラス別での選考は取り止め、女子アジアの代わりにシンガポール招

待大会に選手を執行部会で選出し派遣したことが報告された。

尚、A B B F 理事会・総会も開催されたので玉利会長・吉田副会長も出席した。

(2) 第2回東アジア選手権大会 (6月22日～26日・台湾)

監督 藤原達也
コーチ 嶋岡克巳
選手 下田雅人 85kg級
秋山加津美 57kg級

(3) 第23回女子アジア選手権大会 (8月30日～9月3日・ベトナム)

第20回アジアジュニア選手権大会
第回アジアマスターズ選手権大会
第回アジアミスフィットネス選手権大会
第回アジアボディフィットネス選手権大会

監督 青田正順
選手 内藤隆之 マスターズ 45才以上

女子アジア、並びにジュニア・マスターズの派遣については従来は日本クラス別にて決定されていたが、今年はベトナムの開催が不確定のためクラス別での選考は取り止め、マスターズ派遣選手は内藤隆之選手に執行部が選出したことが報告された。

(4) 第24回世界女子選手権大会 (9月21日～25日・スペイン)

第11回世界ミスフィットネス
第5回世界女子ボディフィットネス選手権大会

監督 大垣純子

(5) 第5回日韓親善ボディビル選手権大会 (10月1日・大阪)

監督
コーチ

(6) 第59回世界男子選手権大会 (10月26日～30日・チェコ)

IFBB総会

団長 玉利 齊
団長補佐 吉田 進
監督
コーチ 後藤 剛

(7) 第26回世界ジュニア&マスターズ選手権大会 (11月10日～12日・イタリア)

監督 磯村 俊夫

(8) 第15回アジア競技大会 (12月1日～15日・カタール)

第42回アジア男子選手権大会

団長 玉利 齊
監督 朝生 照雄
コーチ 青田 正順
コーチ 鳥谷部 篤
審査委員 中尾 尚志

以上、平成 18 年度国際大会派遣役員案について、審議の上、全員これを承認する。尚、状況により変更となる可能性もあり、その際は、玉利会長及び執行部に一任することを承認された。

【第四号議案】 規程の改定について

諸費用規程、国内旅費規程、役員海外派遣規定、公認品・推奨品認定規程の改定案、及び謝金支出規程の新規案について審議の結果承認。 [規程集参照](#)

【第五号議案】 新規加盟クラブ及び退会クラブについて

1. 新規加盟クラブ(2)

愛媛県連盟 ランクアップ松山

石川県連盟 ヴィテンののいちボディビル同好会

上記2件の新規加盟申請を審議の結果承認。 [詳細は名簿参照](#)

2. 脱会クラブ(9)

宮城県連盟 勝又トレーニング同好会(退会)

新潟県連盟 斉藤ボディビル同好会(閉鎖)

新潟県連盟 西新潟ボディビル同好会(閉鎖)

岐阜県連盟 IWATAボディビル同好会(解散)

岐阜県連盟 ニューワールドジム(退会)

岡山県連盟 トレーニングルームオリンピア(閉鎖)

大阪府連盟 アスレチックアドバンス(閉鎖)

福岡県連盟 ジャパンヘルスクラブ(閉鎖)

茨城県連盟 VITAX GYM(退会)

上記9件の退会を承認。

【その他報告事項】

1. 佐賀県ボディビル連盟正会員変更の申請(佐賀県連理事会承認事項)の件。

福井統正会員が体調不良のため、新しく北原誠氏が正会員として承認されたことが報告された。

2. 審査に関する指針、並びに規定ポーズの統一について

以前よりの問題点を取りまとめ、わかりやすく指針とし、今年より規定ポーズを統一することが説明された(指針内容、ポーズ解説はホームページに掲載)。 [詳細は専門委員会の審査委員会を参照](#)

3. JOC強化スタッフ(平成18年度)の推薦について

医科学 石井直方

コーチング 朝生照雄 後藤剛 大垣純子

マネジメント 磯村俊夫 鳥谷部篤

情報 青田正順

JOCが競技の専門性に乏しい部分に対応し、各競技団体よりメダルを獲得するためJOCの強化スタッフの推薦の要請があったため、日本連盟として以上の7名、医科学スタッフとして、東京大学大学院卒業で国立健康栄養研究所勤務の谷本道哉氏を別途推薦中であることが報告された。

4. 他団体に籍を置き、大会に出ていた選手のJBBF選手登録承認について

愛知県連盟より、山野内里子(過去1997~1999年の3年間NBBFに所属し大会出場)の選手登録について、愛知県連盟としてはJBBFの規程・ルールを遵守するとのことで承認したとの、日本連盟に申請があった。規程・ルールを遵守することで理事会は承認したことが報告された。

5. 相川浩一選手、アマ復帰について

相川浩一選手はJBBFプロ第1号として、インフィニティ(株)と契約して年間120万円の認定料が日本連盟に納入されていたが、インフィニティ(株)より今年は見送りたい旨の申入れがあり、相川選手のJBBFプロ資格が喪失したので、アマチュア復帰の申請があり、理事会で承認したことが報告された。

6. IFBBプロリーグ認定選手について

山中 輝世子 フィギア
斎 藤 円 フィギア
Paker 田上 真江 フィギア

日本連盟より推薦したIFBBプロ資格申請中だった3名が、IFBBプロリーグ選手として承認された。3選手より今後の活動についての誓約書が提出された事が報告された。

7. 東アジアボディビル選手権大会(第3回)、2007年度日本開催について

東アジアボディビル選手権は今年で第2回となる。3回目の来年(2007年)の開催を日本で行うか打診されたので受諾してきたことが報告され、開催主管は山口県連盟の嶋岡克巳正会員より正式な立候補表明があったので承認された。又、栗井直樹中国四国ブロック理事より全面協力するとの表明があった。東アジア連盟の加盟国は、日本、韓国、中国、香港、マカオ、台湾、モンゴルの7ヶ国である。第1回開催は香港、今年の第2回は台湾である。財源、宿泊施設、送迎の問題が重点でホスピタリティ(親切なもてなし)が重要である事が玉利会長より説明があった。

8. アジア競技大会について

朝生照雄アジア競技大会監督より、監督に選ばれた謝意と決意の表明があった。尚、前回は8名の枠であったが、今回も8名の申請をしたところ内示が4名となった。現在復活折衝中でメダル獲得のため後2名の枠を確保すべく要望書を提出していることが説明された。

また、最終派遣選手決定は日本クラス別大会の結果をJOCに申請して決定されることが説明され、選考については執行部に一任された。要望選手名は、前川武宣、合戸孝二、谷野義弘、近藤賢司、須江正尋、相川浩一選手を要望選手として提出している事が説明された。

尚、トリノオリンピックの選手の一部が「楽しんで来ました」など入賞もせずテレビで発言したことが、JOCに対し「国費で出場した選手の言うことではない」などの批判が殺到した為今年のドーハ・アジア競技大会は、メダル獲得の可能性、出場選手の国費使用の自覚、マナーの遵守が必須条件で、選手団の大幅な削減などについて、玉利会長が補足された。

9. (株)フィットネススポーツ「アイアンマン誌」の扱いについて

「アイアンマン誌」の取材拒否につての扱いについて、謝罪文の提出はあったが、現在JBBFをドーピングテストで陽性になり除名された選手を「スター」扱いして紙面に掲載されていることが報告され、反JBBFの行動をしない誓約書を提出する。アンチドーピングを徹底させる。以上が約束されれば提携関係として対応していくことが説明され承認された。

10. 静岡県にて開催された日本クラス別選手権大会開催時に静岡県連盟徳田常任理事と合戸常任理事と三人が協力して島田市より、全国大会誘致の助成金を30万円交付されたのでこれを日本連盟に寄付する事が静岡県連盟後藤剛理事より発表された。尚、全国大会を開催する場合には申請すれば自治体は助成金が交付されることが説明された。

11. 大会でのカラーリングについて

女子選手は日焼けすることが敬遠されているのでカラーを塗る事を認めて欲しいとの意見が理事会で出されたことについて、各正会員より意見が出され、基本的に、カラーリングをすることは下部組織(県連盟)の主体性を尊重していくことが承認された。但し、会場の養生を徹底し、トラブルを起こさず、ボディビルの評価を下げないように補足された。尚、大会でカラーを使用する下部組織は日本連盟に責任をもって行う旨の申請書を提出することとした。

12. JBBF公認指導員の資格名称

JBBF公認指導員の資格名称では、重いものを持たされるイメージで敬遠されているので、一般の人に理解させるような名称もしくは現在の名称に他の資格を付与して、仕事に使えるように改善してもらいたいとの意見が三島勇治理事よりあった。

玉利会長より、ボディビル競技の特性、ウエイトトレーニングのスペシャリストである雰囲気を出していく必要は大切だが応用範囲拡大の為、何か付加する方向で考えることは賛成であるとの表明があった。また、中尾常務理事より一般受講者を対象に実技の講習会を検討してはどうかとの意見が出された。高校の先生方が受講できる体制が今後必要であり、石井直方指導委員長と検討することが報告された。

12. 野沢広報委員長が「スクワット健康法」が再販出版されたことを説明。

以上で、総会が終了した。